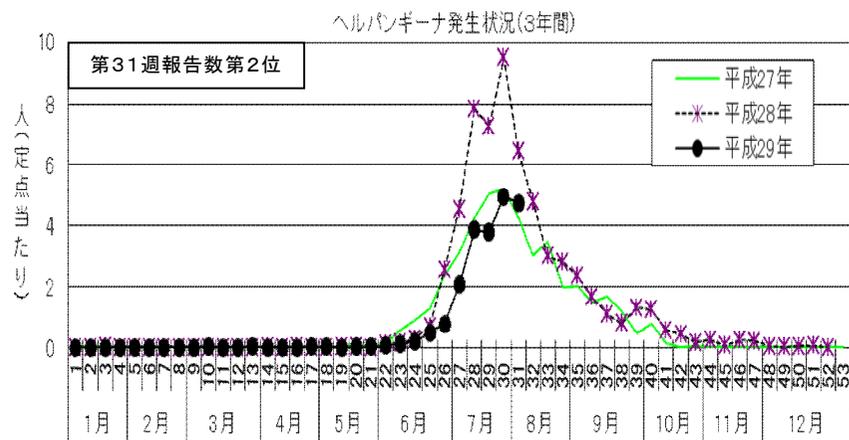
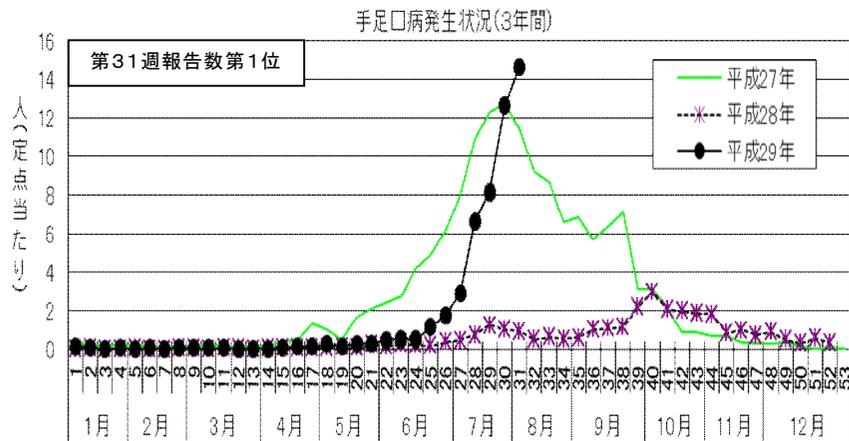


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成29年7月31日（月）～平成29年8月6日（日）〔平成29年第31週〕の感染症発生状況

第31週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)ヘルパンギーナ 3)感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は14.65人と前週（12.67人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.73人と前週（4.94人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.95人と前週（5.14人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



夏場も気を付けましょう！～RSウイルス感染症～

RSウイルス感染症は、通常、秋から冬にかけて流行がみられる呼吸器感染症です。近年、流行の開始が少しずつ早まっており、今年は昨年よりも1か月以上早く患者報告数が増加し始めました。

川崎市においても第31週(7月31日～8月6日)の定点当たり報告数が2.73人となり、昨年9月上旬と同レベルの患者報告数となっています。

また、学校・保育園等欠席者サーベイランスによると、RSウイルス感染症と診断され保育園を欠席した園児の数が、市内ほぼ全域で増加しています。

RSウイルス感染症

【感染経路】 咳や鼻水などによる飛沫・接触感染
【潜伏期間】 2～8日（典型的には4～6日）
【症状】 発熱・咳・鼻水などの症状が数日続きます。多くは軽症ですが、咳がひどくなり、喘鳴や呼吸困難などの症状が出て、細気管支炎や肺炎へと進展するお子さんもいます。

予防対策

- ◆手洗いの徹底
- ◆おもちゃは消毒後、必ず流水で洗浄
- ◆飛沫感染対策として大人はマスク着用

